

第76回有瀬図書館ギャラリー展

神戸学院大学図書館 展示会通信76号

MERIDIAN

2025年7月11日発行

Victorian Culture

- イギリス黄金期を彩る文化 -

2025.7.1-11.3

入場
無料

有瀬図書館本館2階エントランスコーナー

※開催期間は変更になることがあります。図書館HPにて、ご確認のうえご来館ください。

ヴィクトリア朝とはどんな時代か

ヴィクトリア朝は、1837年から1901年までのイギリスでのヴィクトリア女王治世の時代を指す。ヴィクトリア朝は、イギリス史上最も輝かしい時代の一つとされ、その影響は現代にも色濃く残っている。国の発展は多くの優れた研究者や作家、芸術家を生みだした。ウイリアム・モ里斯やオーブリー・ビアズリーをはじめとする芸術家、文学者チャールズ・ディケンズや詩人ジェフリー・チョーサー、劇作家オスカーワイルドや科学者チャールズ・ダーウィンなど、様々な分野で、数えきれないほど多くの著名な人物が、この時代に活躍することとなる。

参考:世界史バシク(<https://worldglobalist.com/>)



ヴィクトリア女王

(1819-1901)

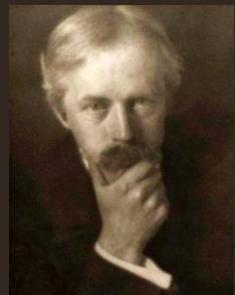
2022年までイギリス女王であったエリザベス2世の高祖母にあたる

画像:パブリックドメイン

アール・ヌーボーを象徴する雑誌『ザ・サヴォイ』とは？

イギリスの文学芸術雑誌。デカダンス誌「イエロー・ブック」から追放されたビアズリーを美術主幹に、アーサー・シモンズを文芸主幹に据えて刊行された。誌名はビアズリーの発案により、当時ロンドンに新しく完成したばかりのホテルの名から採用された。1896年に第1号を発行、数々の有名画家たちの絵画を掲載し芸術至上の主張をよく貫いたが、同年12月、8号で廃刊。終刊号はビアズリーとシモンズの作品だけで1巻をまとめた。「サヴォイ」や「イエローブック」などの文学芸術雑誌は、表紙絵や挿絵を通じてアール・ヌーボーの伝播に大きな役割を果たした。

参考:集英社世界文学大事典



アーサー・シモンズ

(1865-1945)

詩人、文芸評論家、雑誌編集者

画像:パブリックドメイン

モノトーンの奇才ビアズリー

イギリスの挿絵画家。ロンドンの保険会社の事務などを勤めたのち、1891年バーン・ジョーンズの勧めで画家となる決意を固める。ほとんど独学でラファエル前派やホイッスラー、日本の浮世絵版画などを学び、獨得の纖細なスタイルを築いた。T・マロリーの『アーサー王の死』(1892年)の挿絵を皮切りに、オスカーワイルドの英語版『サロメ』(1894年)、『イエロー・ブック』誌(1894年創刊)、『サヴォイ』誌(1896年創刊)などの挿絵や装丁を手がける。大胆に省略しデフォルメした形体と流麗な線描、白と黒の鮮やかな対比によって退廃の雰囲気を色濃く漂わす独自の世界をつくりあげた。肺結核のため25歳という若さで亡くなった。

参考:日本大百科全書(ニッポニカ)



オーブリー・ビアズリー

(1872-1898)

イラストレーター、詩人、小説家。

画像:デジタル大辞泉

オスカー・ワイルドとビアズリー

アイルランドの恵まれた家庭で生まれ、オックスフォード大学を首席で卒業後、ロンドンに出て文筆生活に入るが、奇抜な服装で人々の好奇心と敵意を駆り立てた。童話集『幸福な王子』や小説『ドリアン・グレイの肖像』など数々の著作があるが、中でも戯曲『サロメ』はフランスで出版され、人気を博した。当時イギリスでは聖書の人物を登場させることができが禁じられており、戯曲はフランス語で書かれた。その後英訳版が出版されるが、その挿絵としてビアズリーが抜擢された。ビアズリーのその大胆な作風に、ワイルドは当初戸惑いを見せ「このままでは戯曲が絵の説明に成り下がってしまう」とまで言わしめた。

参考:世界文学大事典、イロハニアート(<https://irohani.art/>)



オスカー・ワイルド

(1854-1900)

詩人、作家、劇作家

画像:日本大百科全書
(ニッポンカ)

モリスとArts and Crafts Movement運動

ロンドン近郊に生まれ、オックスフォード大学で建築を学ぶ。最初は建築家を志したが、ロセッティの勧めで画家志望に転ずる。1850年代後半には広く生活環境の美化を目指すようになり、1861年モリス・マーシャル・フォークナー商会を設立。その後モリスは産業革命が招來した機械文明、極端な貧富の差に対抗すべく政治活動に身を投じることになる。工芸方面の仕事も多くの領域にわたり、モリスに刺激された各種工芸家の組織が形成される。近代デザイン運動の発端をつくったこの動きはアーツ・アンド・クラフツ運動と呼ばれた。1891年に印刷所「ケルムスコット・プレス」を設立、ここでケルムスコット版チョーサーとして知られる『カンタベリー物語』(1896年)などが印刷・製本された。

参考:世界文学大事典、イロハニアート(<https://irohani.art/>)



ウィリアム・モリス

(1834-1896)

テキスタイルデザイナー、工芸家、
詩人、翻訳家、印刷者など
画像:デジタル大辞泉

ヴィクトリア朝の児童文学

イギリスで大人の文学とは違う「児童向け文学」というジャンルが確立したと言われるのがヴィクトリア朝時代。産業革命による経済の発展を基礎に、子どもを取り巻く社会環境は大きく変わることとなる。教訓的な物語をやさしく読めるような小冊子を配布する「日曜学校運動」を契機に広がった子どもの本は教育の普及に伴い、次第に「おもしろくて、ためになる」ものへと発展し、子どもの興味や関心に応えるさまざまなジャンルの作品が生まれる。この時代に生まれた作品の中には、ビアズリーも影響を受けたケイト・グリーナウェイの『窓の下で』や、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』、『ピーター・ラビット』で有名なピクトラス・ポターなど、現在でも人気のある絵本作品が多数登場した。

参考:国立国会図書館 国際こども図書館「ヴィクトリア朝こどもの本」



ケイト・グリーナウェイ



ルイス・キャロル



ピクトラス・ポター

ヴィクトリア朝の研究と文学

ヴィクトリア時代はイギリスの全盛期である一方で、階級社会による貧富の差が拡大した時代でもあった。貧民街や公害など、様々な問題を抱える中で、チャールズ・ディケンズのように自分の貧しい環境をもとに、作品を通じて社会改良を目指していた作家や研究者も少なくない。『資本論』で有名な経済学者カール・マルクスもまた、裕福な家庭に生まれながらも、思想によって故郷のドイツを追われ、亡命先のイギリスで困窮したまま生涯を閉じた。この時代には女性作家も数多く台頭し、『嵐が丘』のエミリー・ブロンテ、『ジェーン・エア』のシャーロット・ブロンテ姉妹など、家庭や社交の場が女性の役割であったこの時代に、彼女たちの作品は、家父長制への批判や新しい女性の在り方への足掛かりとなった。



チャールズ・
ディケンズ



カール・
マルクス



シャーロット・
ブロンテ

参考:日本大百科全書(ニッポニカ)

展示の様子



編集後記

第76回有瀬図書館ギャラリー展では、「Victorian Culture-イギリス黄金期の文化-」と題して、イギリスの歴史上もっとも輝かしい時代とされるヴィクトリア朝を彩った芸術、文学に関連する作品を集めました。63年7か月に及んだヴィクトリア朝。この時代はイギリスの最盛期とされ、産業革命を終えたイギリスが世界をリードしていました。そんな国の発展に呼応するように生まれた数々の芸術家、文学者たち。その中には現代でもその名を耳にすることがある著名な人物がたくさんいます。今回はそんなヴィクトリア朝時代に刊行された文学芸術雑誌「ザ・サヴォイ」を中心に、ウィリアム・モリス、オーブリー・ビアズリーなど、輝かしい時代を生きたアーティストたちの作品をご覧いただける展示となっております。

参考文献

日本大百科全書(ニッポニカ)、集英社世界文学大事典 / 日本国語大辞典
イロハニアート(<https://irohani.art/>) / 世界史パンク(<https://worldglobalist.com/>)
国立国会図書館 国際こども図書館「ヴィクトリア朝こどもの本」

展示では、貸出できる資料も
ご紹介しています！興味のある
方は是非探してみて下さい！



神戸学院大学図書館展示会通信 Meridian第76号

2025年7月11日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬18

TEL→078(974)4584 E-mail→pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL→<https://opac.kobegakuin.ac.jp/>